

C'	そらに切指て遊女に帯解かせ	全	
ZAL	夜 ^ル 昼の境隔ぬ風雅同士	全	同所 如川
PAL	終夜詠明しの月の友	全	
B'	皮と身の中を隔ぬ後の母	全	野田 鼠亭
B'	万道に入得はかたし捨小船	全	79オ
B'	暮の得手としられぬ国の下手の真似	全	同所
Q	吉野仕廻木曾路の花ハ戻りかけ	全	同所 雷子
B'	斧疵の象も曇らぬ星葉師	全	
LP	列ぶしに神刀でやる木曾丸太	全	
H	浮草の跡ハねもなき姫菜摘	全	
VAL	形見として後住にゆつる種子瓢	全	同所 吟笑
MAL	宿かれは寒ひ貞せぬ雪の主	全	指宿 梅風
OAL	苦船や二百十日の毛もふかす	全	80オ
OAL	退役や気俣にあざる月日貝	全	
IAF	留主明て出るも戸さ、ぬ御代なれハ全	全	
ZAL	嶋原に起るハ網の一揆のミ	全	
B'	指ヒをさす五右衛門もなし蜂目貫	全	
SAC	武士も桜に暮す治世の春	全	
B	白浪も立ぬ渚の貝拾ひ	全	
B'	月障り伐る木ハ父の道ならず	全	宮之城 芦畔
Y	疱瘡の峠をけふて廿日越へ	全	7ヒ
XAC	吉野路の峯の白雪蝦夷に消へ	全	
MAL	御和睦の済んで矢叫声もなし	全	
OAL	厄明て胸の曇りも晴日和	全	同所(朱) 81オ
B'	親の敵うたと暮家を取娘	全	宗碩(朱)
KA'J	暮るゝとも道ハ吉野の花戻り	全	
LM	御暇の日から山中大納ごん	全	
H	身二重となりて命の帯を解キ	全	酔計
E	案内する身ハ帯引の瀧隣り	全	
H	鶴貫ふ餌飼の文や鳩一羽	全	
H	今日ハ皆祝ふや疱瘡の棚おろし	全	
E	豊さの集りを見し年の市	全	東郷 遊之
VAL	親里ハ風も涼しの一重帯	全	82オ
VAL	数の子に代をゆつり葉の飾餅	全	
H	我庵ハ花より都の辰巳峠	全	
Y	治めおく袋や御代の丸木弓	全	
Y	花守ハ妹か由縁の草の庵	全	
B'	女でもしれた暮らしの二人口	全	宮之城 芝三
E	松に藤かゝる子ハなし寺所帯	全	
B'	いひ同士で早苗の節も揃ふ諷	全	
B'	弓手妻手姫か力の五人張	全	東郷 宇風
B'	夫婦口負郭二頃の田て寒き	全	
H	鯉江に釣竿軽し瓢酒	全	
VAL	旅衣まだはるゝの親二人	全	83オ
H	娘ある内ハ知行の高枕	全	
OAL	裸にて入るや風呂屋の髻養子	全	
C'	朝餉参れゝの隣同士	全	末吉 睡猪
B'	平産や子の泣を笑ふ舅姑共	全	同所 笑月
ZAL	豊年や貢済したる秋の月	全	
MAL	初旅や跡に見なせし峠越	全	
B'	厄年も晴れて出たり月の産	全	
SAC	茶の支や能ふ催して遣ル宇治拾遺百年	全	遺佐志 84オ
H	面白ふ妹かゆかりの水貫ひ	全	
H	其訳をしらぬ顔して渡守り	全	志郎郡山田
DAc	歯朶飾り仕廻ふて春をまつ門	全	ト半扇
KA'J	百詠のむつまし月や梅の花	全	
UAc	ニタ親と寐た夜ハ曲輪の雪も解	全	
GAf	招キ合ふ扇子ハ恋の風薫ル	全	
WAF	世にあらで除夜の節なし竹格子	全	
DAc	疱瘡や夙時花医の尻軽シ	全	
OAL	水洩ぬ中や隣りの相酢壺	全	
XAc	小野炭や燃付のよい火燧の間	全	

E	浅茅生の花に陰なき月の友	全	73オ	B'	京の伯母加へぬ隣の姥桜	全		R	曇りなき交る友や月今宵	全	
B'	和哥の浦波打返す玉手箱	全		MA L	解合て汲や隠居の茶の湯同士	全		O A L	七人の竹馬を繋ぐ花の本	全	
MA L	樋ひの水乳分ヶ志て遣る山屋敷	全	大口小川内	B'	百敷や及ハぬ和哥の友千鳥	全		G A F	道艸の耳に坂なし時鳥	全	同所 鯉翠
E	猿も養きて酒宴りの一時雨	全		G A F	仁者にハ仇風なしの花盛り	全		E	村鳥も住よき慈非の花の山	全	同所 鯉翠
P A L	品玉や習ふて鏢ハ抜にけり	全		王請ふ疑ふことなけれ				E	恩愛の契や深キ妹背川	全	
I A F	初午の日ハ釣鞍の神詣	全	出水 菅十	同所		菅十		H	落人や忍逢夜の山桜	全	同所 蘭翠
E	はる／＼と尋られけり山桜	全		T A F	活花の会や根もなき風雅同士	全	芳翠	M A L	坂中の気付や口に匂ふ梅	全	
P A L	疱瘡に宥病入らぬ哥かるた	全		L O	一とせは夢や現のすゝ払	全	ヒビ	O A L	楳に火に勤の帯を解ッ庵	全	
Y	内外もなき七賢の隣同士	全		H	大金をくれていさかふ旅の列	全		P A L	米背負ふ肩ハ親子の諸力	全	
O A L	わたらしと究めし橋も友に列	全		S A C	十人て持石かくら三人て	全		E	情有る国ハ龍虎の睡なし	全	
MA L	道草に遠けれど寄古竹馬	全	74オ	B'	熟睡の目を覚しけり郭公	全		Y	免走る波のうね行月の船	全	
D A C	落着て寝る国入の泊り鴈	全	出水 鯉翠	K A J	表紙屋の糊て関羽の疵か愈	全		Y	おもふ凶に乗て追風や小早船	全	同所 梅左
Y	抑もならず智者か論木の取捌	全		具 当世の華陀権林も				W A F	難題とおもひの外な内訴詔	全	
X A C	雨の手か添ふ帆柱の走り船	全		かちほだし也				P A F	帯解ひて夢やむすはん草の庵	全	
O A L	智慧能の荷ハ重からぬ頭陀袋	全						X A C	剃刀落す天窓ハ胸の衣かへ	全	78オ
MA L	命一つちり毛とも見す御馬先	全	ウ					B'	四人ても汲て名染し桃の酒	全	
R	関取の追風や強シ角力灘	全						P A L	わたましや障子ふすまも隔なし	全	同所 蒼顔
H	母衣かわす石の鳥井の神楽参	全		K A J	隣から妻呼鹿の汁と鳴	全		M A L	そふろふの水ハにこさぬ厂の列	全	
MA L	帆を下ケて渡れば四海浪立す	全		E	雪咄火燵に解ル水魚同士	全		E	恩愛の契や深キ妹背川	全	
X A C	平産の早めや室の梅守り	全	同所 松露	U A C	初旅の道列となる今風や	全	ウ	H	落人や忍逢夜の山桜	全	
B'	庵の雪解て流る、和哥の友	全	75オ	X A C	裏道の関ハ戸さ、ぬ乳の隣	全		E	尻軽き生れハ村の如意法師	全	同所 蘭翠

N	外堀も埋メて寐能ひ城の夢	全	MA L	旅人の力ミをつくる姥か餅	全	H	小倉山寐覚香し新枕	全
WA F	爪一ツわりなき中や乳兄弟	同所 芝三	C	積る雪日比の染池ありミる茶	全	R	酔の間ハ實関白と吞上り	全
H	四季咲クや花の命を池の坊	全	H	御取立におふてからめて庭普請	全	H	大臣の鬼挫しく茨屋	全
C	伝言の耳にも奈良の鳴晒シ	全	B	拜領の時服のゆきハ身に余リ	全	O A L	功成りて楽ミ五湖に究りぬ	全
C	大関となりし姿を墨に染メ	全	K A H J	順礼や和光の塵り一ツ夜着	全	E	玉垣の本や同者のさねかづら	全
B	豊年と太ル姫子の所帯持	全	B	誰もがも善智職也都鳥	全	I A F	見渡せば竈つゞきに立煙り	全
B	言葉には売買ハなし花染や	全	(ママ)	読かね赤面	全	Z A L	忠臣の勢ハ白狐の火の手也	全
WA F	浮橋や開キ掛たる花の山	宮之城 桐水	U A C	帆を上ケて玻璃と楽寐の北枕	山野 青柳	Y	風さそふ花を散さぬ施薬院	全
U A C	相惚は味な目尻の假名がへし	全	U A C	月待の戸さ、ぬ内に乳貰ひ子	全	C	鳳城の野山の錦着て帰り	全
B	御氣に入ル女中ハ閨の御伽役	全	O A L	味しらぬ鳴戸ハうまひ汐かげん	全	H	宮柱清メ	同所 曙山
B	他人向娘を遣ると髻舅	全	Q	帰るには杖を有馬の湯に捨シ	全	K A J	馬道をよけて山家の木槿垣	全
U A C	是哉この往くも帰るも神の加護	全	G A F	追風に水主の栄花や五十五里	同所 春暁	PL R	宮柱清メ立たる芸州塩	全
E	目の病ひ霞も晴れて出ル仏ケ	同所 隆山	B	手もなれし後ロ姿や黒木売	全	WA F	馬道をよけて山家の木槿垣	全
H	口筆の嵐いとわぬ文字の花	全	H	木曾路なら又もいて見ん花の旅	全	WA F	吞込みしはなハ其座の仲人口	全
B	物言ハぬ計りが猿の綱渡り	全	B	蓮の香の初近キや寺の飯	全	WA F	風形りに帆を持ッ船の軽我ハなし	全
T A F	手に入て機の音能キ錦織	同所 甫吟	WA F	花に宿かる身そおなし蝶と蝶	全	MA L	老の皺延る火のしや隠居領	全
H	少シなから社司か手柄や快気酒	全	E	千金の山も見へけり通し駕籠	全	C	世のよこれ一ト洗濯の五十鈴川	全
S A C	掛乞の鬼やらひして煙草の輪	全	I A F	血を分ケしやうに愛想後の母	全	MA L	大江山行野に出て若菜摘	全
P A L	夜通しや巴へ頼んで木曾の道	全	R	助太刀て敵の有家知ル上エは	全	B	親分の人に着せたる旅衣	全
MA L	攝待に來て迷ひ子の左右を聞	同所 蕉雨	L V	打ツ人もたへて鞍もとりの宿	全			

KAJ	一刷毛に水の流る、床 <small>繪馬</small> の瀧	鶴松	串良
KAJ	七曲 <small>り</small> る糸に見立の蟻通 <small>シ</small>	全	
UAC	除夜といふ名計てすむ山の庵	同所 鳳卵	
Y	凧や一夜に富士を銀表具	全	
Y	飛するも書も艸履の鳥の絵	全	
Q	竹馬からかけて咄の隠居同士	全	
OAL	思ふ瀬のあれは千里も一日路	全	
ZAL	朝敵ハ散りて跡なしけし畑	同所 其桐	62オ
XAC	戦場も梓に乘せて御代の春	全	
SAC	面白 <small>ヒ</small> ふ馬士も鈴鹿を颯て越	全	
UAC	しら浪ハ海計也陸の旅	全	
B	世話の浪四海にたへて楫枕	同所 雪山	全
Q	ばら <small>／＼</small> と雨夜の星や見ゆる疱瘡	全	
PAL	付合は風に柳の互すれ	全	
IAF	水形に住メハ濁らぬ水魚同士	全	
UAC	竹馬からはね合もせぬ隠居同士	全	
N	笠縫の里ハ咄 <small>ヒ</small> によるの雨	同所 一峰	
B	御暇の出雲もすめる月の友	全	63オ
Q	竹の杖桜見 <small>ヒ</small> に奥のやつれ笠	全	
E	夏旅に雪の肌解 <small>ヒ</small> ク不二詣 <small>テ</small>	全	
ZAL	誓願も清く流れて岩清水	全	
H	月の曇り灸のト火に秋の月	全	
Y	参籠に頭痛もさがる藤の住 <small>レ</small>	全	
H	月見から我身に掛る雲もなし	全	
H	桜売りも嵐の山の華の友	全	
Q	法の垢落て涼しき湯殿山	全	
ZAL	戻 <small>ヒ</small> るにハ重荷も足のかるひ沢	同所 串木野 林風	
WAF	求喰跡とちる計や哥仙貝	同所 愚老	64オ
B	哥の雨貸傘に親疎なし	全	
MAL	道中の苦は中山の餅の味	同所 蘭茅	
B	俄客なれと隣か八百屋にて	全	
E	神風に騒がぬ御代の下向船	全	
H	乳貰ひやむつかしからぬ妹か宿	全	
OAL	取遣りも中か吉野の花隣り	全	
PAL	月に雲掛るせハなし走り船	同所 鼠山	
UAC	打解て語り明しの月の友	全	
H	貰ひ水柳に流す女口	全	
IAF	順風 <small>ヒ</small> や鳴海の沖も楫枕	全	65オ
PAL	野分とは噂も吹かぬ豊の秋	全	
MAL	重からぬ一駄の上の小風呂敷	全	
WAF	酒手から足柄山 <small>ヤマ</small> の通し駕籠	全	
Y	請合の重からさりし軽業師	全	
WAF	相嫁の中は濁らぬよしの川	全	
WAF	盃は欠ケても丸し月見同士	全	
MAL	起て見つ寐ても香ハし蘭の友	同所 蘭風	
MAL	伊予殿に似ても咎むる関ハなし	全	
MAL	一村ハにごらぬ井戸の水と魚	全	
E	助太刀にしぶひ顔せぬ熟柿にて	同所 宮之城 淳風	66オ
OAL	厄になる身のおしけなきけしの花	全	
IAF	雨雲の疵一つなし玉川路	同所 財部 來風	
B	妾御台玉の台ナ <small>の</small> 琴碁書画	全	
R	豆板で鬼は追ひけり年忘れ	全	
PAL	廻国の後 <small>口</small> 楯也觀世音	全	
Y	借銀も剪 <small>ソツ</small> て隠居の坊主成り	全	
PAL	是非にとはからざるものを雪の宿	同所 軒雀	
MAL	遠方の茶の道近し雪の友	全	
ZAL	嬉しさや此赤免馬 <small>ヒ</small> に乗るからハ	全	
H	相惚ハ佐渡と越後の相言葉	同所 梅林	67オ
Y	踏出サぬ内こそ寒し雪木の子	全	
OAL	初産に用意の熊の手も入らす	全	

PAL	言の葉に任する筆にかきつばた	全		VAL	手を打ハ痛む奥歯の抜参り	全		Y	幾人の望を貢ク茶屋女	日州高城
UAC	湯治場に他人ハなしと入交り	全	56オ							
IAF	念比に一河の流れ渡し守	全		UAC	大名の寐間を旅路のかり枕	全	横川	XAC	桜見に翁も鶴の脛からす	余り心安くては金に成まし
IAF	植て見や花の実はへを教艸	全		H	東帯を脱で涼しき五湖の月	全		PAL	今日よりハ気も晴てる須戸の月	
TAF	戻りまで桜の芳レもあらし山	全		GAF	昔シ見し花か実 <small>に成ル</small> 旅の列レ	全	加久藤	R	初産や子添もいらす紐か解ケ	
TAF	白波ハた、で世話なき立田越	全		GAF	踊寄て借らる、馬 <small>の従弟村</small>	全		IAF	別業や世を引汐の浜屋敷	同所
VAL	我庵ハ鹿のねぐらて墨衣	全	ウ	ZAL	身を積て人の痛さや雪の宿	全	串木野	E	桂木の神や夜道の通ひ橋	同所
H	貫ひたき望ミに小ひざ折手本	全		B	願果す千度ハ疱瘡の数ならず	全	蓮野			
OAL	風雅とし淀の出合やほと、きす	全	鷺声	OAL	丸木橋座頭ハ歌で世を渡り	全	同所	E	箱根まで登／＼し旅鳥	かけわつらひ給ひしよし
	蝉板て都にばつとちらし書	全		GAF	平産ハ神の恵ミの重き故	全	日州松山	WAF	熊の手も入らすに解シ産の紐	
	承り付す赤面			VAL	伊勢戻り足より孫の疱瘡軽し	全		R	疱瘡も山をあけたり郭公	
UAC	貴賤共打込の温泉てとろけ合	全		Y	七曲り賀して八千代の鳴廻り	全	鹿屋	H	引分 <small>と</small> ケて治る御代や茶臼山	同所
N	麻袴抜て蓬の家住居	全	57オ	Y	何事も替らぬ中の遊ひ同士	全	山翁	TAF	一筆に首尾ハ墨絵の娠貰ひ	同所
VAL	馬の背もからて木幡の通ひ道	全		WAF	鉄子を鉛の如く彫物師	全		MAF	何事も南無八幡の枕神	二笑
GAF	世渡りの瀬ふミも浅し奥田舎	全			川越て足も淀まぬ作り道	全		E	行暮て月に宮川越にけり	
KAJ	塩売を烈 <small>列</small> に鮎持信田道	全		SAC	鉄子を鉛の如く彫物師	全		UAC	旅立も矢立一つて墨の袖	串良
IAF	西陳はあせの手称葉に渡り鶴	全			鉄子を鉛の如く彫物師	全		E	御ちからに成て三かん取宿禰	蔵六
OAL	其道て入たり出たり海士子共	全		ZAL	思ひおふとはしら菊の華貰ひ	全	鹿屋	H	紅葉菓子茶ハ山吹の隠居寺	全
E	間に逢ハ火繩の火也朝貞見	全			思ひおふとはしら菊の華貰ひ	全	風立	H	桜の兄梅本坊は肉の縁	全
ZAL	黒鉄を秘事にまつけや針かね師	全			思ひおふとはしら菊の華貰ひ	全		B	水廻りよひ疱瘡や豊年	串良柏原
MAF	芸子より舞子の馳走とろ、汁	全		PAL	思ひおふとはしら菊の華貰ひ	全			杏蘭	

OAL	今年から年季も晴る、秋の月	同所	蕉雨	SAC	乳を貰ふ夜に呉竹のふしはなし	全	B'	俄客何かな爰に打玉子	東郷	全
N	泰平の世に大津絵もけふ土産	全		MA L	貰ふより呉る、茄子に灰汁はなし	全	MA L	米ふみもいらぬ酒屋の水車	蝶子	全
PAL	有難や世か世の春の時津風	同所	全	MA L	借す宿の重モからさりし石山寺	全	H	世渡りに借分なしの五人口	全	
IAF	隔なき寐物語や壁隣	同所	松峯	MA L	窮鳥の埒受合ふ紫衣の袖	全	XAC	客に飯焚せて青菜買ひに行	全	
B	疱瘡のやまを越路の下り坂	同所	全	ZAL	貰ふより呉る、茄子に灰汁はなし	全	GAF	船と船との隣で茶を貰ひ	全	
MA L	十二方逆風ハなし讃岐船	同所	鶴洲	KA J	窮鳥の埒受合ふ紫衣の袖	全	VAL	田舎でハ俄芝居の寺舞台	全	
ZAL	吉野行脚勝手 <small>イ子</small> の宮か寝所	同所	全	UAC	友二人り五六の蚊屋の花菖蒲	全	E	見る人の氣ハ細川の綱渡り	全	
SAC	難題も苦脳 <small>クノウ</small> 内儀の歌か読メ	同所	未煉	XAC	夏瘦もおろく、力ら月の旅	全	E	千石の重荷を軽ひ船卸し	同所	
GAF	産の紐解ル鳴ク子に母の笑	同所	全	OAL	客は獅、亭主ハ牡丹咲乱れ	同所	GAF	分けて遣る乳房に花のもろ笑凹	梅月	
IAF	東照る神の光りの西明り	市米	全	PAL	交りの濁らぬ中の水と魚	全	Y	地ならしハ長の旅路の戻り道	全	
GAF	憲清といはす天窓も仕抹せず	芳瓜	全	OAL	旦那寺に孟宗貰ふ竹馬同士	全	SAC	献立の魚を吞込ム鶴飼船	全	
E	即興に春をたのまぬ返し哥	全	全	UAC	方針の穂先キに青む国の山	垂水		新しくバいとす、むへけれど	全	
UAC	人の股くゝるも智慧の越シより	同所	全	VAL	内外をも任せて置や伊勢手代	全	B'	手折人を云ふ迄もなき曲輪の花	全	
E	野風呂一つとても苦になき花戻 <small>同所</small>	銀杏	全	PAL	疱瘡や峠を越して下り坂	全	WAF	旅馴れて何ソの苦勞も那智詣	全	
H	類船に分ルも水の澄ミちきり	全	全	OAL	初産も御府の刀に笑ひ顔	同所	C'	山坂も達者や不地の木曾生レ	全	
OAL	姫取て何よりもまつ年仕舞	全	全	DAL	馬駕籠の有馬の旅や湯の湧出	全		ふ地とは承り馴す	全	
B'	乳貰ひや骨無分ル納屋の姫	全	全	B'	たちくつハ御所の娘か袖の塵り	全	B'	雁瘡は枯から有馬の湯で玉子	全	
UAC	請合の能キ切レ口や刀ナとき	全	全	OAL	腰分も軽ひ出立や二度の旅	全	C'	鯉庖丁淀の御客に任せけり	全	
UAC	船中か出入吞ミ込難波口	同所	全	DAC	相惚の花や染ミ付鳳仙花	全	IA C	参宮の下向を乗せて下り汐	全	
TAF	産の月十六夜よりもはやめにて	同所	冬月	B'	千石も都につく牛車	東郷	B'	頭陀掛て巡る月日か歩る、	全	
	借す宿の重モからさりし石山寺	同所	全	H	掛合の咄ハ店の隣り同士	白石	PAL	関の戸ハあらしの山の桜狩	全	

OA L	金子あれば泣む瀬ハなし流れの身	全	H	大海に足も弱らす戻り船	同所	E	拝みして仏に貰ふ寺の桃	全
H	渡りよき君か代形りの橋の月	全	H	奢なき身には日月も静也	全	SAC	哥読して自在に娑婆を小風呂敷	全
GAF	名月や空に閑なし須戸の旅	全	B	腹鞆うつ、枕の稲筵	全	UAC	垣一重外に隔てぬ隣同士	同所
ZAL	初産の子添も熊の手間取らす	同所	WAF	換約に家の破れを葺合	全	OA L	落合ふて皆垢なしの桜見酒	全
OA L	路金辻亭主に頼伊勢の旅	同所	E	長病の親も寢床を離レ医者	全	XAC	交りに今にふし出ぬ竹馬同士	全
PAL	熊坂ハ死んで野宿に鬼ハ出す	同所	ZAL	遠道に我里見へた戻り馬	全	SAC	宿馴れて見れば旅路も苦にならす	全
E	九十賀を越へて百にもなり瓢	同所	MAL	井戸かへてすむ山里の水の味	同所	PAL	なぶれとも酢屋の娘ハ腹立てす	全
E	瘡瘡の峠を越へて先キ下がり	全	GAF	隠居した日から浮世の塵りを見す	全	DAC	君か代や御製の秋の厚烟り	全
VAL	水揚ケの次第をとくと呑込ませ	全	OA L	風枝を鳴さぬ御代にいきの松	全	PAL	なぎのよや四海しら波音もせず	全
PAL	おもひ立旅路ハ笈も荷にならす	同所	B	茶の友の交り泡キ水もらひ	全	OA L	しかる程笑顔に姫の意地をミス	全
WAF	恋沈夜ハ浮橋も気にかけてす	全	LAF	難題とおもひの外の七歩の詩	全	SAC	其後は不用の軍馬野に放シ	全
H	立待の間に初産の月も晴れ	全	SAC	弓矢取ル身も引込てすみ衣	全	MAL	斯あらは焼まし世話を孫の産	全
OA L	交りの水上清し君子国	全	XAC	音にのミ世の有様をきく作り	全	UAC	押剪て浮世の外にすみ衣	全
TAF	廻国やふる里に解ッ雪の笈	同所	UAC	隣から足さるぬきを呉羽鳥	全	UAC	下紐の解たる中の縁結ひ	全
MAL	家桜譲り渡して橋の月	全	UAC	世の外にくもなくすめる月の庵	全	XAC	一息に千束の文も達者筆	全
B	隔なき友に落チ合ふ那智の瀧	全	DAC	貢キ濟ム夜から庄屋も月見酒	全	UAC	世の中に露の憂もならぬ鹿	全
UAC	身に病ひなくて世界を薬売り	全	UAC	角のなき人をかしらの桜かり	全	TAF	千代かけてる大樹の花の蔭	全
C	煤計り外に払なき暮の冬	全	OA L	山里に住メ八月雪恥もなし	同所	KAJ	遊ふ子の鬼出て居る羅生門	同所
OA L	中よひ友といふへの月見酒	同所	PAL	あし軽ふ立や難波の哥行脚	同所	KAJ	馬草にも鬼あさみなき鈴鹿越	同所
C	中直す和合の露の花畑ケ	同所	E	制札ハ立とも寐たる稲も有	全	MAL	実貞な子に鞆当の念もなし	同所
ZAL	稚ナ子の口に浅瀬を旅の川	全	OA L	初産の紐も解けり家の花	全	PAL	御恵の雨露には民の福寿艸	同所

Y	あひ互何を洗ふも川隣リ	芳山	MA L	いもの熱さめて三つ子も笑ひ声	全	Y	疱瘡の峠を下り汗を干シ	全
Y	初産に子添も入らぬ荷を卸シ	全	GA F	戦場の跡は千草に虫の声	同所	H	床痛ミも巢抜て娑婆に羽を出す	全
Y	旅立に箕笠入らぬ一ト日和	全	Y	荷に付ケし言伝テかるき国便り	全	KA J	帆の孕ミ鳴か生る、戻り舟	全
FA F	花の世になりて住よき月の庵	同所	VA L	疱瘡の穂が見得て家内も熱か覚	全	MA L	御暇の日か奉公の入梅揚り	全
E	雨風も枝をならさぬ御代の春	全	VA L	帯解て寐るも亭主の情より	全	B'	木娘のなびく姑の柳風	全
UA C	請合もよし野、花の姫貫ひ	同所	GA F	熊坂もむかし語りて懐手	全	B'	疱瘡の居て母ハ頭を揚ケ	全
H	川越の人も大井の歩渡リ	全	IA F	風形リに住メハもつれぬ柳髪	全	TAF	請出さる時か遊女の放生会	全
GA F	蝶の戸を渡す桑名の春日和	同所	OA L	酒代に猩、の絵を書て置	全	R	鳴く月の代済て起碇	全
XAC	隔テなき和哥の遊ひや花に蝶	正風	H	十分に酔ふて斬も高枕	全	R	日出日和に追手の風や湊口	全
Y	借して遣る貞は根なしの草双紙	全	UA C	人参に及ハぬ疱瘡の哥かるた	同所	PAL	帆の孕峯も晴行竹生嶋	全
ZAL	抱て行子ハ荷にならぬ花の山	同所	DA C	花呉る、羽遣ひ軽し蝶の友	全	VAL	身を請し日ハ親くの産生日	全
XAC	頭陀卸す宿やゆかりの月の影	秀翠		交りの介掛らぬ水と魚	全	OA L	医師替て痛も抜き足の杭	同所
UA L	植木まで切つて隣に月を遣り	全		往来にも人のさかなき村隣	全	E	腹鞆ミ打や年貢の済た村	全
KA J	胸を舂く白井峠も跡になし	全		聞惚の蝶が宿かるはなの暮	全	H	曇りなき姫か鏡のわらひ髪	全
B'	鮎の子も日、く登るさ、れ川	全		裏表なき言の葉も慈悲の露	全	OA L	葉さくらに中の直しあらし山	全
IA F	曼五百いらぬさいふの神詣	随鷗		馴染し里近ふなる暮の鐘	全	B'	葺替の夜こそ大寐のことはしめ	全
KA J	血を分し様ないろはの相机	全		茶一つて汲受も能ひ二世の約	全	B'	御帰陣の閨は去年の年忘レ	全
OA L	雪国の雪も流て花の旅	全		頼荷の骨に答へぬ海月つと	全	H	名灸や杖をわすれて立所	全
WA F	西東隣隔てぬかきつばた	全		戸さしせぬ御代の詠や月の旅	全	PAL	姫姑中もよしの、はな心	全
IA F	引汐や袖も濡さす若布苧	全		骨を折姫に姑の扇風	同所	IA F	参宮の風や利生の一走り	全
PA L	木作も梅か小路にもてなされ	全			鹿子			

E	新蕎麦の田舎馳走や都客	同所	夏水	ウ	I A F	木曾丸太雪の中より逆下し	同所	鬼の字も田村の筆にちらし書	同所	静鳥
E	疱瘡にして二つ三つ只よ花	同所	全	C	くらま山晴て矢橋の渡守	樋脇	華笑	B	鼻塵りも吹落す也斧の風	全
S A C	手袋も引かて布袋の面々刻ミ	同所	隆風	M A L	真帆引て富士の高根を三穂か崎	全	全	Z A L	百足射た夜から往来もせ田通り	全
N	重ひ荷を軽ふ請合ふ箱根茶屋	全	全	B	ひき烈し娘も伊勢の旅の空	全	全	M A L	手馴れば藤太か腕の五人張り	全
C	二親もまだ若水を汲車井戸	全	全	H	神風にふかれて冷し伊勢参り	全	全	B	良もすればほとけくと囃す也	全
H	二ッ口と言ハて吞込ム茶屋の亭主	全	全	O A L	親達もいもの峠を下り坂	日州松山	青瓢	S A C	洛陽ハ鬼門を御ふく比叡いの山	全
Z A L	挨拶もよしの、茶屋の花娘	同所	全	C	水海といふも吞干ス茶碗酒	全	全	C	角細工ハ牛の刀て付キて見る	全
B	案内もいらぬ藤戸の瀬を渡り	同所	艸龍	C	賭弓や其要用に月の友	東郷	其風	K A J	望人に片尻かけて達広の絵	蒲生町
B	関の戸に袖の羽叩ッ乳の真似	全	全	B	月花に世の胎脱申隠居僧	全	全	M A L	快気する程養生の道明り	全
R	綾はたの糸ももつれぬ娘かあぜ	同所	願月	T A F	神刀を請て氏子の鳥井出シ	全	全	R	はつかしきおもひも解ル夜半の雪	全
V A L	墨色を覚る曲輪の八文字	同所	全	I A F	難題の句の苦にならぬ七歩の詩	全	全	B	九重の歌も読けり八重の汐	全
R	疱瘡の湯の尾峠に肩を越へ	同所	齡水	H	雇ひ度ものよ水主にハ伊賀守	全	全	D A C	鶯を案内に頼ム梅津道	東郷
B	母の苦を孕ム間もなし産月夜	全	全	C	山賤の家に柴の戸の隔なし	全	全	V A L	なら漬の親仁を寐せて涼茶屋	免声
H	乳になく子に貰わする寺の鯉	全	全	O A L	欠ケ徳利相に相持相借屋	全	全	P A L	出銅の軽荷や五百羅漢講	全
B	初産の母は絵馬に乗せもせず	全	全	B	墨曲尺ハ空に蜘蛛の家作り	同所	免声	免声	免声	免声
O A L	水かねハ花の夕べの箱伝授	全	全	S A C	汐時に戻し付たり嫁直し	同所	免声	免声	免声	免声
B	燈を打消す夏の油虫	全	全	S A C	海士か子ハ波の陸路を歩渡り	全	全	免声	免声	免声
G A F	神農も笑ミを含ミし悟り草	全	全	X A C	忍ばれぬ月夜に花の陰かさし	全	全	B	貰ひ乳や笑顔に崇る神もなし	同所
H	仲人の名計口を月今宵	全	全	H	年限も晴る、月夜のうたぐ寐間	日州松山	青瓢	V A L	親里の八重桜見や一重帯	同所
O A L	塩焔の火のつくよふな姫貰ひ	全	全	B	風の手も能書の梶で船の額ッ	松月	全	C	行水をしてあんまくも寐待月	全
				B	手馴れば重キか臼も軽業師	全	全	N	扇屋の末広かりや嫁二人リ	全

VAL	痛齒か落て紅葉の臭もさめ	全	UAC	鶯に老ハゆつりて和哥の旅	全	ZAL	芳野から初瀬を七里の桜の旅	同所
DAC	法躰や彼岸桜の寺見舞	全	DAC	しからミものふて今宵の逢ふ瀬川	全	B'	水貫ふ娘か膝をまげ柄杓	全
XAC	宵の間に蚊の喰打や城の月	全	MAL	退て追分ハなし 浮寐鳥	全	DAC	初機や見ておる内に梅の花	同所
UAC	一年の塵りを払ふて除夜の酒	全	ヒヒヒヒヒヒヒ	四海浪立ねは民の		VAL	桜守も枝折て遣る酒の礼	全
DAC	相櫛といふやへたてもあらひ髪	同所	Y	退て追分はなし天の道	全	N	弓張の月に引出す矢走船	全
OAL	吹払ふ後姿や髪 of 塵り	全	UAC	世の人に構ぬ華の山住ひ	全	VAL	押掛に望ム吉野、梯子鮓	全
ZAL	相傘ハ紅葉戻りの初時雨	全	IAF	滞陳を和睦使僧かすみ衣	小林	SAC	小僧にも半分分る達尸墨	全
DAC	四海浪静かなる世の遺唐使	全	R	交りハ皆源の友千鳥	全	UAC	山坂もいまだ苦に見ぬ桜狩	山
H	手引ともなる道の下り坂	全	Q	御平産住吉石の稲光り	全	OAL	金子を先キに立て、越へ行年の関	全
H	からかさをさして内裏の菖蒲売	全	UAC	疱瘡の軽キは重キ神慮也	全	XAC	人、の天窓にかけて橋ふしん	同所
PAL	乳を分ヶし事も有馬の湯治小屋	全	VAL	腰折れの杖ハ湯治の置土産	全	VAL	一ト里ハ濁らぬ水の間井戸	雲流
OAL	争ひし事もなきさの貝拾ひ	全	GA F	遠近も分ぬ旅路の道神	全	SAC	板倉ハ口事の逆カ目を苦にも見す	全
VAL	汲受て後ハ渚なし水の流	小林	C'	腰なへの上戸の渡る丸木橋	全	IAF	年の暮爪迄取て仕廻風呂	全
DAC	茶一つて隈なき月の隣客	全	心	心安はあるまひそふなもの		KAJ	足柄の山越ゆる日にふしの灸	全
DAC	解合ふた中やかり着の雪合羽	全	UAC	谷汲に羽子を休る笈の鶴	全	XAC	白浪ハ豊あし原に音たてず	全
SAC	川村か堀て浪華の出帆入帆	全	B'	子か疱瘡も軽ひ沢迫虫狩	河辺郡山田	IAF	姫入髪いふも佞也従弟同士	同所
E	通夜済て戻れば産の軽井沢	全	TAF	引受ておしゆる慈非や琴の弟子	全	UAC	牛よりも川に引かする帆柱木	全
OAL	世のことを山家の鶯にしらへ替へ清水	国分小林居住	TAF	姑から望で孝の嫁菜飯シ	全	ZAL	糸の直のもつれを捌く伊勢手代	全
SAC	弓引ハ案山子計や御代の秋	全	GA F	泥に染ぬ蓮に往来の君子回	全	C'	みかど石軽きも守れ虚空蔵	川
AN	取遣りも互に慈非の相借屋	全	GA F	病ひなき身の一徳や薬売	全	C'	疱瘡と医師の咄に高鼻	全
OAL	姥か手もよごさす解テ産の紐	全	E	月の比ハ旅に出るも入もよし	全	C'	讃岐山風に世話なし権現丸	全

TA F	交りに節なき竹の友雀	全	KA J	野馬台の文字の手引や蜘蛛の糸	全	GA F	憲清ハいつの間にかは旅衣	水引
GA F	長旅の古郷に帰る夜半の夢	全		身一つて二重か程か谷を三度笠	全	PA L	朝貞に笑ふて汲し隣井戸	同所 梅可「ウ
WA F	朝敵をねせて夜討の勢揃へ	全「ウ	蒲生	膏薬の蛇は癖 <small>カサ</small> の瀬をはなれ	全「ウ	WA F	蓑笠の用意迄也旅行脚	全
KA J	とらの風吹ひて千里の走船	谷水	C	麦飯の手間取りもなく鳥羽の茶屋	全	Y	重からぬ身振りするとの軽業師	全
XAC	鞍かひに来るも節なき竹馬同士	全	UAC	何の苦もしらぬ留場の浮豚鳥	全	B	竹山に七つ聚星の丸遊び	同所 全
WA F	状一つ届くる先キハ二軒茶屋	全	UAC	檀方に響ぬ寺の鐘供養	全	SAC	請合し矢ハ三日の十万年	孔明の謀は一夜の間也 飛入
WA F	難題も細川出て言流し	全	ZAL	夢て越ス夜を引船の十三里	全「16オ	OAL	打とけて雪を見廻の隣どし	全「18オ
WA F	影曰当無き中てかる小焼灯	全「14オ	SAC	桜見の透間に貰ふはな娘	全	H	乗輿に障り風なき桜見船	全
B	金子持の蔵は他人か作立	全	Y	一口てふたくちなしの娘貰ひ	全	OAL	隣医に配剤替へし姫直し	全
B	掛けて来る暮八十目の劣指	全	Q	国の山見へて飛立時鳥	同所 磯月	H	夢覚す経読む鳥や寺の番	同所 全
B	夏瘦も最早楽也夕気色	大崎 香松	PAL	神風に千里の灘もかち枕	全	B	乗物も桜にかゝる名やかゆる獨尤	同所 一夕
WA F	新田やおもふ凶に乗る水車	全	I A F	ふし三里登せも灸に焼下り	全「ウ	B	夜走に月も読メけり和哥の浦	全「ウ
UAC	娘入も滞在の名て小風呂敷	全「ウ	OAL	酒の野狐放すハ親の大般若	全	TA F	雲井迫雲雀も舞ふて桜の幕	同所 全
I A F	米搗も人手ハいらぬ水の足	全	WA F	隣から縁の放れを惣大工	全	H	小式部ハ小サき口て大江山	同所 笑種
E	参宮の跡ハ念なき二柱	全	C	手をくんで工面なからも細工人	宮之城 秋竹	I A F	つ、かなく雨にも濡れす日伝言	全
H	もの毎に垢なき娘か玉櫛キ	全	C	医の恩に命チ拾ふて刀石	全	B	突出しの夜から解合ふ曲輪の雪	同所 全「19オ
VAL	仇打た跡は涼しき蓮スの花	全	H	思ふ程越べて苦 <small>も脱カ</small> なし歳の関	馬関田 和峯	PA L	隠居して月雪花に暮の鐘	仙風
H	鴈風呂ハ浪に寄木の捨篝リ	全「15オ	Y	生垣を分而中よき友白髪	全	KA J	丹波路も久しふ鬼の沙汰ハなし	全
GA F	剪残す耳か此世の種子ふくべ	全	UAC	白鷺の墨絵に筆をひねる首	全	TA F	四海浪静になりて五湖の駒	同所 全
B	箴文の手尔葉も取らて角力艸	全	C					
TA F	浮雲の掛る苦もなき五湖の月	全						

UAC	神風の追手か、るやさらく帆	全	7オ	Q	花見から染木もいらす茶に替り	全	E	垣一重咄し垢なし <small>ヒ</small> 風呂屋同士	全
MAL	産声ハ医も見ざる間の時鳥	全		OAL	然者の下に匂もなし姫貰ひ	全	H	しな玉や姥が手つまの金輪切	全
SAC	案内ハ金子 <small>子</small> て落足坂もなし	全		GAF	言訳に何の瀬もなし洩もなし	全	C	重き荷の箱根ハ馬士の諷かるた	全
SAC	川出しの丸太ハ雨の請流し	全		OAL	四つに渡る角力ハかねや手もつかす全	全	B	宿かりて鉢の木を切音もなし	全
IAF	御熊野の御府 <small>(符)</small> に産屋ハ医も知らす	全		UAC	気の野狐ハ高間ヶ原の一払	全	Q	乳を分ル子に夕良のはな薙	全
MAL	熊の手や産屋ハ姥か手間取す	全		B	運つきて落足早し一ノ谷	全	E	和哥の旅恥は書とも笠一つ	全
PAL	御やつれの身の重からん小風呂敷	全		H	旅込屋の気転や人の隙取らす	全	SAF	挨拶の片手に文をかきつばた	全
UAC	楽も苦も覚へす花の日遣り道	全		H	猿蓑を荷にして廻ル歌行脚	全	PAL	鷹野留主奥の花鳥羽を抑キ	全
ZAL	今は早人の百足の舟卸シ	全		OAL	烈合ハ口に蓋なし底もなし	全	WAF	樋の水の流れ汲よふ門隣	全
B	あぶな瀬に乗込娘の身廻竿	全		B	信濃路を今年ハ雪の花日和	全	TAF	表裏なき世の交りや隣同士	全
ZAL	咽通る昨日の暑 <small>サ</small> 秋の風	全	8オ	B	御望ハ天下一味の唐からし	全	E	方針に放れぬ雲やふしの山	全
XAC	順風に帆を揚足の船親父 <small>(巻首末)</small>	全		B	借ッ請ッ流しつ質の隣同士	全	WAF	追風の俣に船頭吹たばこ	全
VAL	風呂敷に世帯包 <small>ン</small> て国廻り	全		Y	白浪かた、てさらく唐帰朝	全	B	洪水に人手ハいらぬ帆柱木	全
UAC	比叡に雲か、らぬ春の矢走船	全		Y	野形出上を掛行狩野、駒	全	N	かねの瀬に傾城か千尋の筆流し	全
MAL	金子の無ひ身に徳は有年の暮	全		VAL	媒の噂にそよく梅の風	全	SAF	一盃て雪も消へ行酒の足	全
SAC	草鞋にも喰はれぬ旅や大江山	全		B	うき橋を水の掛込涼川	全	WAF	老の杖和哥の浦追忘れ行	全
XAC	馬士諷 <small>ニ</small> のりて越行鈴鹿山	全		B	梶取の栄花の夢や遠江	全	UAF	茶袋にかへて惜しまぬ花娘	全
WAF	憂雲の掛る日もなし抜参り	全		R	旅垢の馴し有馬の乳兄弟	全	R	一夜也入魂に宿を二見写	全
UAC	立根なく風に柳や垣一重	全		H	忍ふ夜ハ撫て戻すや女郎花	全	IAF	月花の軽き旅出や和哥の浦	全
VAL	青梅の匂ひを配ル風雅同士	全		H	頼まれて月に洩さぬ窓の文	全	WAF	茶摘から貰ひし宇治の花娘子	全
UAC	水形りに住メハ螢の同士明り	全	9オ	B	袂から出れば瓜の二つわり	全	MAL	重ひ荷を軽ふつみけり讃岐船	全

同所
花鳥 全 11オ

同所
露水 全

同所
梅露 全

鶴田
厂子 全

全 12オ

全 13オ

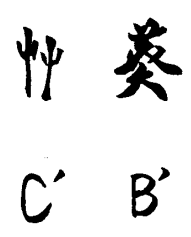
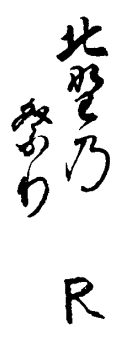
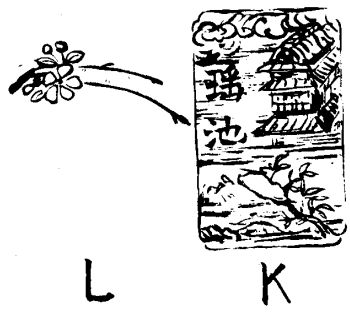
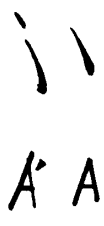
はひ
かひ 船 親 父

心安さよ

「1ウ

B	分ル手を見て貰ハる、牡丹の根	清書	
DA C	釣瓶にはあさ顔もなき水貰ひ	全	
E	太夫の借る金子や子の日の支度料	全	
GA F	桜の宿かるも時雨の遠慮なし	全	日毎に 時雨にて冬の季也
H	墨色を絵師の花ともかもの水	全	佐志
IA F	哥口の日、喰イや一トよ切り	百年	
KA J	追剥キもなきよ月の旅衣	全	
LM	木曾殿の宵寐巴に蚊を追ハセ	全	
DA C	袈裟こりの軽キ所帯や花の旅	全	
AN	馬駕籠もなく牛若とはな戻り	全	四勝(米) 清書
DA C	折かけの華に手届く一重垣	「子	
OA L	二タロといわて三男娘を取り	全	
XAC	慈悲深く習ひし旅の浅瀬川	全	
OA L	愛想の茶ハ山吹の花の姫	全	
PA L	初産に医師や熊やと沙汰もせず	全	3オ
Q	茶一つといふ間に姫か取肴	百年	佐志
R	一筆の文をのせたし船便り	全	
GA F	酒代から軽ひ箱根の通しかご	「子	鶴田
IA F	貰ふても跡の涼しき隣井戸	全	
E	茶一つて源トを知る水の流	全	ウ
Q	萩の葉に露ほど書て抜参リ	全	(ママ)
SAC	旅衣ばかりよわひとはなの伝	全	(ママ)
TAF	良薬て長キねくらを放生会	全	鹿城下
UA C	民の籠皆賑ふと笑ミ給ふ	全	龜雛
OA L	元の瀬に帰る生贖の身請状	全	4オ
MA L	誕生に得手の挙の白木弓	全	同所
R	親の目を抜けて愛らし子共列	冬扇	同所
SAC	わら筆の得手に乗せたる絵師の駒	全	
UA C	仙洞と成て地をふむ花の山	芦舟	同所
KA J	翅休む広野や関を籠抜鳥	全	是も同前
OA L	曇なき御代目てたけれ月の旅	露水	鶴田
VA L	造營の成就節シなし杳の頭	全	鹿兒島
DA C	頭陀一つ軽キ所帯の旅俗衣	蕉風	
NA	一村ハ花鳥にさへ余情あり	全	
VA L	鬼死んで生きた浮虜浮ク京童	全	5オ
WA F	法躰や氣から曇らぬ須戸の月	全	同所
MA L	風形リになびく柳や後の母	全	
XAC	請合は我子のことし烏帽子親	全	
WA F	雨風も止て月見の舟卸シ	全	
GA F	思ひ立はなに旅寐の抜参り	全	同所
OA L	留主中ハ奥の鳥も鷹となり	全	加治木
OA L	蝶留る花に嵐の出もせず	全	
NA	殿風をよけて湯治の放鷹	全	
Q	野屋敷に実はへの床や菊の庵	全	
Y	茸狩に誘ふ湯治の味か付	全	鶴田
E	一口にのミ込旅の清水茶屋	花鳥	6オ
H	廻り合敵は瀬の川遊び	全	
R	いつ見ても替らて靡ク曲輪柳	全	
PA L	水上に手も濡さすに花井筒	全	
PA L	法躰の身ハ又涼し旅衣	全	
SAC	腰分て往来守る伊勢同者	梅露	同所
Y	御訴詔にかゝる雲なし秋の空	全	
XAC	付合ハ袖垣一重柳形り	全	
VA L	半切に咲や此花傾城か筆	全	

△鈎点・印点△



える向きもあるようであるが、本書のような雑俳の会は、現在のような俳句結社の大会とは違い、各地方の村々に世話人がいて、それらの人々が近隣の出句者の付句を取り集めて催主や清書所に届け、これを整理して一書に清記したものに宗匠が点印を加えて優劣を判じたのである。が、それはともかく、薩隅日における近世中末期の雑俳の流行とその興行形態を明らかにするには、まだまだ本書のような雑俳集が数多く発見紹介されることが必要である。因みに園田家蔵の雑俳集が今一冊発見されており、この方の紹介翻刻は次号に予定されていることを申し添えておく。

なお、本書の翻刻に当たり、これを快諾され借覧をお許し下された現保管者鶴田町教育委員会、鶴田俳句会、並びに種々御教示下さると共に借覧にあたり斡旋の労をお取り下さった市来家隆氏に、この紙面を借りて厚く御礼を申し上げる。

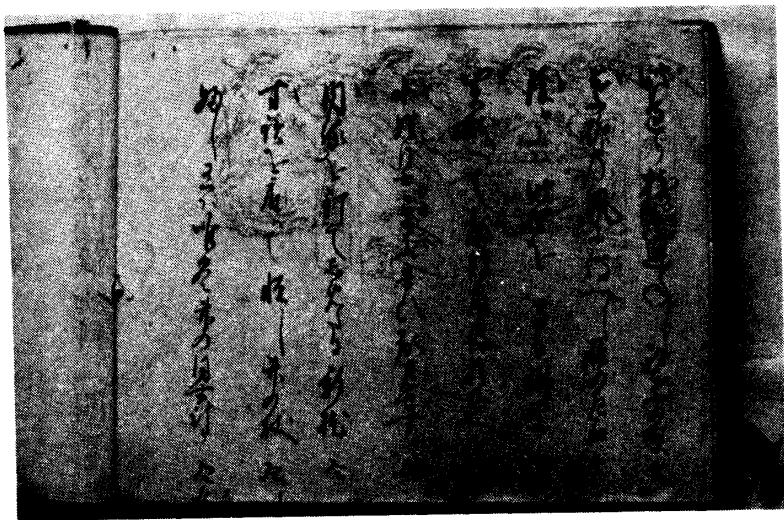
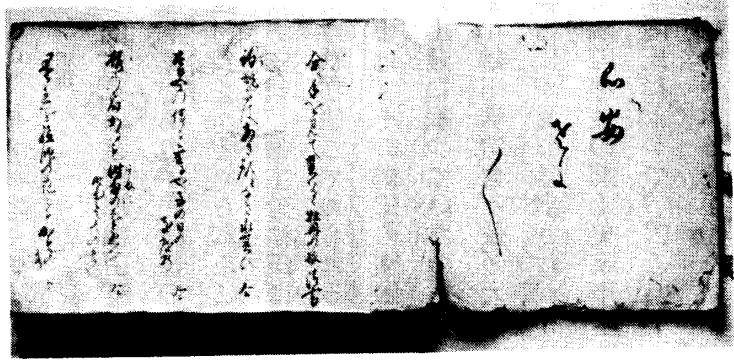
(大内初夫)

翻 刻

凡 例

本文は、原文を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便をはかるため左の要領に従った。

- (1) 文字はおおむね現行通用のものに改めた。しかし当時慣用の嶋・泉・艸・鴈・躰・哥・姫・迨・彥・广・广など、わずかながら異体字・略字体を用いたものもある。
- (2) 清濁・仮名遣いは原本通りである。
- (3) あきらかに誤りと思われる部分には(ママ)と脇に付した。
- (4) 読解の便をはかつて、一部ゴチック体を使用した部分がある。
- (5) 丁付は(1オ)・(ウ)のように簡略にした。
- (6) 鈎点・印点については、左に示すように模写図を作り、ABC……の記号で句の上に記した。鈎点A'は墨、他の印点はすべて朱である。



本書の筆者は、二丁目の作者名に「清書厂子」とあり、鶴田の雁子がこの前句付の催しの折清書所をつとめて、これを筆写清書したものと見られる。その成立については、出句者の鷺声・梅月の名が、安永以後の成立と推定されている入来町東郷家蔵の雑俳集にも見出されるところから、大体同時代のもものと見ておられる市来氏の説に従ってよかろう。

本書には雑俳集として入集句に点やさまさまの印が施してあり、印は「春日野」「江南」「太夫」「北野の祭り」「五十鈴川」「秋声賦」「高砂」「百夜」など大小方円二十五種におよぶ朱印が用いられていて美事である。もちろん、点印は句の秀逸さの程度を示すものであり、点印が多いほど点者から秀逸句として高く評価されたということになるが、どの印が具体的に何点に当たるかは、この雑俳集では明らかでない。また、この点印を施した宗匠は誰かということも、残念ながら明らかに出来ない。

出句者の通称や身分などもこれまた不明である。鶴田の雁子について市来氏は、この雑俳集の所蔵者園田家の人ではなからうかと推測され、年代から園田長記を雁子に当てられて、園田家並びに同長記（通称周次郎・五郎右衛門。島津藩噺役。享保十一年生まれ、文化八年二月二十八日没。享年八十六）に関する詳細な調査を、筆者に私信としてお寄せ下された。ただし、園田家蔵ということだけで園田長記を雁子に当てられるのは、やはり根拠がいささか薄弱であるように思われる。

それから本書によって、百五十人近くの人を一所に集めての会合を考

雜俳集 『はひ
かひ 船 親 父』

— 南九州の国文学関係資料(四) —

解説

○はひ
かひ 船親父

横本 写一冊(鶴田町園田家蔵)

園田家は薩摩郡鶴田町の素封家であり、先代は旧鶴田村長をつとめられたことがあるが、当主芳秋氏は滋賀県に在住しておられる。本書は、その鶴田の園田家の土蔵に眠っていたのを、先年鶴田俳句会々長の大角善吉氏が見つけ出され、祁答院町在住の郷土史家市来家隆氏によって、広く県下に紹介されるに至った新出



福井迪子
橋口晋作
(執筆協力者) 大内初夫

の雑俳集である。その出現の経緯や内容などについては、南日本新聞昭和五十年六月二日付の地方総合版に「二〇〇年前の『雑俳集』見つかる」の見出しで紹介されている。また、同年五月十七日、鶴田俳句会の会合において市来氏は、「はひ船親父について」の題で本書の内容や資料的価値などについての発表をなされており、その折の要旨のプリントを市来氏から頂いているので、それらを参考にして以下若干本書についての解説を試みよう。

本書は、たて十九・五センチ、よこ二十七・一センチ、墨付八十九丁・巻尾遊紙一丁、全九十丁の横本である。表紙は黒茶色で、松に波の絵が墨書されている。題簽は左端に「はひ船親父」とある。

内容は、巻首に「心安さよく」の七七の前句題が記されており、これに付けた五七五の付句八百八十四句を録した雑俳集である。出句者は肩書によって薩摩(北出水・南川辺などの一帯十九ヶ村)・大隅(蒲生・串良・末吉・鹿屋など十三ヶ村)・日向(馬関田・加久藤など)の島津藩支配地の三国にわたることが知られ、作者総数百四十六人である。